

大津小便り

平成二十八年
十二月二十二日(木)
NO十三
文責 吉良智恵美

「さる」年から、飛躍の「とり」年へ

様々なことがあった「申（さる）」年が、去ろうとしています。四月十四日と十六日の二回に及んだ激震。その後も余震に怯える日々が続きました。あれから八ヶ月余り。地震直後は、「がまだせ熊本」のスローガンの元、県民の心が一つになった感がありましたが、最近では、被害の大きさによって、地域間や個人間での意識の差が生まれていると聞きます。被害が少なかった地域では、熊本地震は過去になり、大きな被害を受けた所は、家は倒壊したまま、ガスや水道などのインフラも復旧しないなど、現在も続く災害であります。大津町内でも、それは否めないことのような気がします。しかし、「災害は忘れた頃にやってくる」という言葉もあるように、熊本地震が過去になっても、これから先に、同じような地震や災害が無いとは言えないのです。復旧・復興を遂げながら、今年を教訓にして、来年度へ大きくはばたく、そんな「酉（とり）」年にしたいと思えます。一年間、お世話になりました。

教育の日「大津小防災ディスカッション」

十四日（水）の教育の日、午後一時から、図書館で開催しました。学校運営協議会の皆様に加え、区長さん、防災士さん、消防団長さんの代表の方々十七名に学校管理職が加わり、先の熊本地震の体験やそこから考えたことなどを出し合いました。「自助・共助」の在り方を中心に進行していきまされたが、改めて、それぞれの立場での当時の苦勞



日本のお正月を満喫してください。けがや交通事故に気を付け、始業式には、元氣な笑顔で会いましょう。

などを聞くことが出来ました。地域の方々と共に実施する防災訓練や継続的な防災意識の育成が大切であると改めて感じました。また学校には、災害に備え懐中電灯（ラジオ付）があり役立ちました。飲料水や毛布等は不足しました。町に頼るばかりではなく、校区や学校で出来る備品等も工夫することが必要だとも思いました。参加していただいた皆さん、ありがとうございました。

大津小学校運営協議会主催による川柳大会・入賞者決まる

十四日（水）の防災ディスカッションに引き続き、学校運営協議会の皆様で、応募があった川柳から入賞者を決める選定会議が開催されました。本年度は保護者から百四十一名、児童から四百十一名の応募があり、次の作品が最優秀賞に選出されました。
※保護者の部・西田拓人さん
「見に来てね 無理でもねだる 参観日」
・参観日のスケジュールを見つめる 保護者の様子
※児童の部・寺下隼童さん（四年）
「なんでかな いつもの味が 身にしてみる」
・読み手の想像がふくらみますね。



レベルの高い作品に選考は大変でした。最優秀賞の他に、優秀賞（保護者・児童各1点）及び優良賞（保護者1点、児童5点）が選出されました。十八日の授業参観日に、校長室で表彰式が行われました。来年も親子でのご応募お待ちしております。なお、作品は、図書室前に掲示しています。

授業参観・学級懇談会、お世話になりました。十八日（日）

例年であれば「学習発表会」として、劇や合唱・合奏、あるいは総合学習の報告など、学年ごとに趣向を凝らした発表をするところですが、ご周知のとおり、本校の体育館は使用が出来ません。残念ですが、授業参観及び学級懇談会を実施することにしました。

子どもたちの様子は、いかがだったでしょうか。十六日（金）の町教育委員会の学校訪問では、全学級の授業を見終えた委員の皆様から、「大津小の子どもたちは、笑顔で楽しそうに授業に参加している」「意欲が見える」「自分の考えをいっしょに話している」「自信の考えを頂きたい」「夢を持ち、笑顔と自信にあふれる子どもが育成」が、大津小学校の学校目標です。来年も全職員で、子どもたちの学びの笑顔を増やしていきたいと思えます。学校と保護者の連携も大切です。今後とも、どうぞよろしくお願ひします。



がんばる先生たち
十五日には志賀先生が授業マイスターとして公開授業を行いました。子どもたちは各自の読みを出し合い、課題を検討していきました。国語力(言語力)は、学力の基礎でもあります。先生方は、このような授業研究会を通して、授業力や学級経営力に磨きを掛け合っています。

がんばる子どもたち
毎朝のジョギングタイムです。自由参加ですが、多くの子どもたちが参加しています。絵画展や音楽祭、部活の試合など、それぞれにみんな頑張り、すばらしい結果にもつながっています。お互いに「認め合い支え合う」子どもたちです。



